



今日の実習は3年生 総合学科アグリライフ系列の11人(当日欠席1)です。非農家の生徒がほとんどですが、家庭菜園程度はやっている人も多く、「将来は農業をする可能性もあるので学んでおきたかった」という学生もいます。先生も、野菜専攻の生徒は即戦力となるように教育したいとの意向があります。収穫された野菜や加工品は販売実習の「日野高ショップ」などで非常に評判がよいそうです。

11日の作業はナス・ピーマン・トマト・ウガラシの芽かき・誘引作業と、ネギの雑草取りです。作業の目的や畑に入る際の心構えなどの話もあり、学生は熱心に耳を傾けて

いました。

日野高校では、日南町三本松農場での林業の実習もしています。地域の生活にあった技術技能知識を身につけるべく、頑張る姿がありました。

最後になりますが、取材に協力頂きました、木村先生はじめ、日野高校の皆様、ありがとうございました。

伯耆町の白根種苗園見学

平成26年6月9日、伯耆町畑池にある白根種苗園の社長白根暢之(のぶゆき)様を訪問してお話を伺ってきました。現在、標高約260mの土地で種苗約15万本を7名体制で管理しています。林業を支える最初の一步となる日野地域の種苗業の現状について取材させて頂きました。

白根種苗園では、針葉樹を4万本・広葉樹を11万本育てています。創業は明治期からで、約20年前までは特に造林向けの針葉樹の種苗が主だったとの事です。現在は、広葉樹に関しては自然の山から種を拾って苗を育てる方法を取り、スギ・ヒノキ・松に関しては、日南採種園から種の払い下げを受けて育てています。震災復興事業として東北地方で採集された種で育てた苗木を東北に返す取り組みもされています。土は鳥取県の指定の標準配合によるものを使用しています。

出荷は年中あり、ほとんどが県外の東北・関東向けで、鳥取島根へは少ないそうです。

鳥取県の種苗園でも、後継者不足の問題があり、管理も大変で人手不足の状況が続いています。急な注文にも備えています。去年はスギの注文が急増したが、急には出せなかったということもあったそうです。

今後の山づくりについては、「みんながもっと木や山に関心を持ってくれることを願う。便利な生活になれてしまい、木材の消費がありません。山の中の家でさえ、「煙」を見るのがなくなった。育てても使わなければ意味がない」とおっしゃっていました。

よい苗を植える事は林業の重要な第一歩となります。今後もよりよい山づくりの為に仕事を頑張ってください。また、苗作りという林業の根本についても今後の林業関係者がどう考えていくべきかを勉強させて頂きました。白根社長はじめ、関係皆様ありがとうございました。

